

被災地におけるコミュニティの新再生事業

特定非営利活動法人 亘理いちごっこ

代表理事 馬場 照子

<事業概要>

元々の居住地域から避難所、そして仮設住宅、復興住宅へと被災地ではコミュニティの再編と崩壊が繰り返されてきた。震災による大きなダメージを受けてきた人々にとって拠りどころとなる場のない環境は、これから長期化するであろう震災復興へのこれからの道のりを乗り越える力を宿すことが出来ない。そのような中、本助成によって、地域でそして全国の人々が共に支え合うことが出来る仕組み作り及びネットワークを築いてくることが出来た。

1. 事業の内容

人と人の交流機会を作り出してきた。具体的には下記のとおりである。

- ① 亘理町を離れ、みなし仮設等で暮らす被災者のためのお茶のみサロン開催
- ② わたりホームカミングデー開催
- ③ 被災地 Home Coming Day 開催
- ④ 「いちごっこマルシェ」開催

① 事情により地元で暮らすことが出来ない方々が震災当時のつらい思いを語る場を持てずにいた。地元になかなか行けない、でも地元の人と話したいそんな思いをいただいて移動お茶のみサロンを実施。

② 2011年の立ち上げから年3回開催してきた。バラバラになってしまった皆さん、時には帰ってきて交流しようよとコンサート、パフォーマンス、各種相談、ディスカッション、お食

事と、多様な企画で地域交流を目指している。今まで支援に入っている方々も集まり、震災をきっかけとした地域内外交流スペースともなり、地元と全国とのネットワーク形成の一つと位置付けている。

③ ②の集大成となる催しを平成26年2月25日～3月2日、仙台市東北電力ビルにて開催。被災地にて個々に頑張ってきた団体が語り、学び、つながり合うことで、点から線そして面となって震災復興への道を共にたどることが出来るようにと企画運営を行う。6日間それぞれテーマを持ち、その分野で活動する団体によるパネルディスカッション及びワークショップを開催。成功例だけではなく、困難に立ち向かっている過程もともに共有する。

④ 被災地産地消。地域で生産された農産物や地元商品を販売するとともに、コンサート、ワークショップを開催した。



2. 事業の具体的な成果

本助成によって本当にたくさんの人と人・団体とのつながりを生むことが出来た。

① 始めた当初は涙にしながら被災当初の話をされていた。何度か回を重ねるごとに話すだけではなく、何かをやりたいという思いを持つことが出来るようになり、小物づくりや軽スポーツなどを取り入れる。仕事を持つ方も休みを取って集まり、活気のある会となってきた。
② 老若男女問わず地域の方誰もが集まることが出来る場となっている。本助成で購入したポップコーンマシン等も活躍している。被災地応援をしたいという方々の思いが集まる場ともなっている。宇都宮大学生等が定期的に参加くださり、子どもたちと学生たちとのつながり、そして学生たちの成長の場ともなっている。



③ 本助成がなければ開催することが出来なかった大きな催し物の一つであった。日頃、点で頑張っている被災地域の団体がこれからは共に支え合っていかなければならない。そのような思いに賛同する仲間たちが集まり、互いの活動を理解・共有することが出来た。6日間の総入場者数 2,500 人。参加者数は 100 人を超える。マネジメントを学んだり、生きた運営助言を互いにする事で次への活動への糧としている。また支援者ともつなげる場となり、被災者手作り品を販売するきっかけをつくることもできた。当法人においても他団体の取り組みから今年度事業の組み立てに多くの参考事例をいただくことが出来た。
④ 外からの応援でつながる仕組みはこれから数年で終わってしまうであろう。地域住民同士が支え合うことが出来るつながりをつくるため、

「いちごっこマルシェ」を企画運営してきた。今まで顔を合わせたこともない人たちが食やワークショップなどを通して新たなつながりが生まれている。



「いちごっこマルシェ」開催
郷土料理はらこ飯を楽しむ場面も

3. 今後の方針

これまでプレハブをレンタルしながらのコミュニティ・カフェレストランを運営し、そこに多くの方々が集い語り合いつなげてきた。継続した活動としていくために、トレーラーハウスとプレハブを連動させた拠点地が 2014 年 6 月にオープンする。本助成によって育んできた活動を継続事業としていくとともに、今までいちごっこが点で行ってきたコミュニティづくりを地域の個々に活動する団体・個人と共同で行っていく「亘理ネットワークづくり」にチャレンジしていく。東日本大震災は多くの悲劇をもたらした。しかし悲劇を悲劇のままにしてはならない。何もなくなったあるいは負荷を背負ったマイナスからのスタートに地域コミュニティの再生新生を不可欠なものとしていく。

連絡先

担当者氏名 馬場 照子

住所(〒989-2351)

宮城県亘理郡亘理町字南町東10-1

電話 0223-35-7727

FAX 0223-35-7737

e-mail ichigokkochan@gmail.com